

## 「荻窪の記憶」

## こぼればなし

## 消える荻窪の記憶

「古い家のない町は、思い出のない人間のようだ」といったのは日本画家の東山魁夷ですが、荻窪の記憶を伝えてくれる建物や樹木が、年々、姿を消していくのは寂しいことです。



◀南荻窪には戦前に建てられた立派な洋館が多かったのですが、次々に姿を消しつつあります。丸い窓が印象的だったこの建物もその一つです。



▲鮮やかなブルーの色が戦後の解放感や明るさを感じさせてくれた教会通りのクリーニング店「東京社」。もう、半年以上前から店を閉じています。



◀昨年10月に伐採されたアカマツの大木。戦前、この木が立っていた善福寺川左岸の丘の上には、恩地孝四郎（版画家）、田河水泡（漫画家）、田中青坪（日本画家）、神津港人（洋画家）が住み、「画家村」と呼ばれていました。



▲関東大震災の罹災者への住宅供給を目的に設立された同潤会は、鉄筋コンクリート造のアパートの建設で有名ですが、昭和3年以後、立地のよい郊外で、庭付き戸建て住宅の分譲をはじめました。これは、そのときに建てられ、本天沼に昨年まで残っていた同潤会の戸建て住宅です。

荻窪地域区民センター協議会OB 松井和男